



## 神社本庁による宇佐神宮乗っ取りは許せない

宇佐市・真宗大谷派安養寺住職 林 正道

宇佐神宮の社家で権宮司だった到津克子さんの不当解雇撤回を求める裁判の判決が2月13日、大分地裁中津支部でありました。宇佐神宮職員らによるパワハラの一部を認め、宇佐神宮の穴井伸久前宮司と永弘健二元権宮司に110万円の支払いを命じましたが、解雇無効の訴えは退けられました。神宮側が反訴した到津さんが住む宮司邸の退去明渡しは、棄却されました。古い神社の社家には、伝承や秘儀が残っており、長く続いてきた社家を追放するこ

とは、伝承や秘儀も失われていくことになり、伝統を破壊することに他なりません。裁判所は、これを認めなかったということですが、原告側は、「パワハラが認定され、正常な労働環境でなかったにもかかわらず、労務提供がなかったことを理由にした解雇有効の判断はおかしい」として、福岡高裁に控訴しました。

宇佐神宮は、1300年以上の歴史を持つ全国約4万の八幡神社の総本宮で、到津家は長年、宮司職を務めてきた社家です。2007年、宇佐

憶測がおくそくを生み  
真実が深い闇に  
閉ざされる  
明らかな嘘もあれば  
朗報もある

**日本国憲法 第9条**  
日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。  
前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

神宮の宮司だった到津公齊氏の長女・克子さんが39歳で権宮司になり、翌年、責任役員会が全員一致で克子さんを宮司に具申しましたが、神社本庁は認めませんでした。父の宮司が亡くなった後、神社本庁は、大分県神社庁長（当時）の穴井伸久氏を特任宮司（後に80代宮司）に任命しました。穴井氏は、八幡信仰とは無縁な大分県玖珠町の瀧神社の宮司でした。克子氏は地位保全を求めて提訴しましたが、最高裁で克子氏側の上告が退けられ、敗訴しました。その後、克子さんが宇佐神宮に出社しようとしても明確な指示や連絡もなく、職場から長期にわたる排除とパワハラが行われ、暴力も振られるなど、まともな労務提供ができなくなりました。こうしたもとでも、克子さんは、就労意欲を持ち続け、正常な労働環

境を要求し続けてきました。が、宇佐神宮の穴井宮司は2014年、到津克子権宮司の懲戒免職願を神社本庁に出し、神社本庁は克子さんを免職、宇佐神宮はそれを口実に不当にも解雇したのです。到津克子さんは、不当解雇の無効を請求して提訴しました。

こうした不当な攻撃をはね返すために、小生がかつて建交労中央本部や全労連の役員をしていたことを縁に、到津克子さんは、一人でも入れる建交労（全日本建設交連一般労組）に加入、大分県労連などの支援を受けてきました。また、「宇佐神宮の伝統を守る会」を結成して、団体交渉や宣



伝活動、署名運動、裁判傍聴など粘り強く取組んできました。2014年、広島市で開かれた「日本宗教者平和会議」で、小生や到津克子さんが支援を訴え、翌2015年の大分県宇佐市での「日本宗教者平和会議」では、参加者は国宝・宇佐神宮にも参拝しました。小生は、今年の「3・1ピキニデー宗教者平和運動交流集会」をはじめ様々な集まりでも、支援を呼びかけてきました。

この問題の本質は、神社本庁による宇佐神宮の乗っ取りです。全国8万社を束ねる神社本庁（田中恆清総長）は、本来は各神社の緩やかな親睦会組織です。戦前、侵略戦争を積極的に推し進めた国家神道を反省して、政教分離を謳った日本国憲法のもとにおかれています。しかし、今日では、かつての「大東亜戦争」は「自存自衛」の正義の戦争であったとして、自主憲法

を制定して、天皇の元首化、靖国神社への公式参拝、女性天皇・皇室反対、保守政治家の支援などの運動を、右翼的な神道政治連盟や日本会議の中心となつて進めています。第4次安倍内閣の閣僚20人のうち、公明党の1人を除く19人が神道政治連盟のメンバーです。神社本庁は、全国の神社に憲法「改正」の署名運動を呼びかけ、目標の1000万を突破したと伝えられています。

一方、有名神社の人事権を握ろうとして各地でトラブルとなり、神社本庁を離脱する動きも強まっています。同庁幹部の女性蔑視・差別が指摘されており、有名神社には女性の宮司は認めない方針であることが報道されています。昨年12月7日に東京・富岡八幡宮で起きた富岡長子宮司を弟夫婦が刺殺した凄惨な殺人事件も、その根底には宮司人事に介入しようとした神社

本庁の策動があったと言われていています。神社本庁を離脱した有力神社には、日光東照宮（栃木県）、明治神宮（東京都・のちに復帰）、喜多神社（石川県）、梨木神社（京都府）、富岡八幡宮（東京都）など。神社本庁や神政連への上納金の取りやめや減額などの動きも、出雲神社（島根県）、熱田神宮（愛知県）、金比羅宮（香川県）、東京大神宮・神田明神・大國魂神社（東京都）など大神社で広がっていると言われています。

宇佐神宮では、穴井宮司は、酒宴の席で神職たちが暴力事件を起こし、宇佐神宮の氏子総代会が、能力欠如を理由に解雇嘆願書を神社本庁に出す騒ぎになりました。2016年に辞任しました。代りに送り込まれた小野崇之宮司は、神社本庁の総務部長として、「神社界の森友問題」と言われる本庁の百合丘職員職舎の不正売却疑惑の中心にいた田

中恆清総長の懐刀と言われた人物です。伊勢神宮からの震災被災地支援米の一部を、神社本庁職員に配った「猫ばば事件」の首謀者とも言われています。権宮司には、田中恆清総長が宮司を務める石清水八幡宮（京都府）から大久保博範氏が送り込まれてきました。大分県神社庁宇佐支部は、「小野氏は高圧的、独善的」として、宇佐神宮の祭典への協力拒否を決議、支部事務局を宇佐神宮内から移転し、両者は絶縁状態になっています。氏子らの寄付金集めの協力が得られなくなり、神宮では神事などの資金集めにも困っている、と言われています。そのため

か、神宮の所有地に有料駐車場を作ったり、宇佐市に無償貸与していた宇佐神宮球場グラウンドの賃料を徴収したり、境内のトイレを有料化したり……。また、特定業者と癒着して、本殿に通じる参道の下に地下道を

掘って、小型のモノレールを設置した工事など、不急不急の工事がいくつも行われていると囁かれています。こうしたやり方は、地元の関係者との事前協議もなく、一方的に通告してきており、地元が宇佐神宮を支え続けてきた共存共栄の歴史を踏みにじっています。今、宇佐神宮を守るため、元宇佐市議会議長の久保繁樹氏を発起人に氏子や信者が、「社家である到津家をないがしろにし、地元宇佐地区の神職とも絶縁状態、市民や各種団体からも非難が上がっている」として、小野宮司と大久保権宮司の罷免を求める署名運動が広がっています。

宇佐神宮は戦前・戦中、国家神道のもとで到津宮司は追放され、陸軍大将が宮司を務めました。宇佐海軍航空隊などから、中国や東南アジアなどに出兵する兵隊や出撃する特攻隊員が、宇佐神宮に参拝して必勝を

祈願する『戦争神社』に  
 されてきました。安倍政  
 権は今、憲法を「改正」  
 して、「海外で戦争でき  
 る国づくり」を進めてい  
 ます。安倍首相や閣僚、  
 国会議員が靖国神社に参  
 拝するのは、海外に出兵  
 した自衛隊員が戦死した  
 ら、「英霊」として再び、  
 靖国神社に祀るための地  
 ならしめでしょう。いま又、  
 全国の神社を、かつての  
 国家神道のように総動員  
 しようとしているので  
 す。全国4万の八幡神社  
 の総本宮である宇佐神社  
 の乗っ取りは、その象徴  
 だと言えます。自坊も戦  
 時中、鐘や仏具など供出  
 して、侵略戦争に協力加  
 担してきた痛苦の思いが  
 あります。“戦争する国  
 づくり”を許さず、平和  
 憲法を守りぬくため、幅  
 広い共同が願われていま  
 す。皆さんの力強いご支  
 援をお願いします。

## アフガニスタン WARではなく WATER を

大分メノナイト・キリスト教会 牧師 佐々木淳二

2017年8月20  
 日、ホルトホール大分  
 に中村哲医師をお招き  
 して講演会を行った。  
 1200席が満席とな  
 り、熱気あふれる会に  
 なった。

中村医師は、パキス  
 タンとアフガニスタン  
 地域を股にかけた医療  
 活動に従事している。

2000年、アフガ  
 ニスタンは未曾有の大  
 かんばつに襲われる。  
 水不足が原因で病気に  
 かかるものが多く、抵  
 抗力の弱い子供達が落  
 命した。中村医師は清  
 潔な水を求め、井戸  
 を掘ることを始める。  
 千六百本の井戸を掘っ  
 た。しかし、かんばつ  
 は収まる気配がない。  
 井戸の水位が下がり、  
 枯れて行く。農地は砂  
 漠化し農民たちは村を  
 捨て難民となって都市  
 部へ流れていく。  
 中村医師は灌漑事業

に乗り出す決意をし  
 た。その発想力・決断  
 力・行動力には驚かさ  
 れる。そして、その灌  
 漑工事によって緑の大  
 地がよみがえったので  
 ある。講演の中で写真  
 を見たが、砂漠と化し  
 た大地に水が流れ、緑  
 豊かな田畑が誕生する  
 姿には魂が震えるほど  
 感動した。

今回、中村医師が提  
 示してくれた講演題は  
 「アフガニスタン WAR  
 ではなく WATER を」  
 であった。戦争によつ  
 て世界に平和と安全が  
 来ると言うのは幻想で  
 はないだろうか。

北朝鮮はミサイルを  
 発射し、米国大統領は  
 次のように言った「こ  
 れまで世界が見たこと  
 もない炎と怒りを見る  
 ことになる」核攻撃を  
 ほのめかしているのだ  
 ろうか。炎の下でうめ

き、渴き、死んでいく  
 人々の姿は、世界の  
 トップ・リーダーたち  
 の目に見えないのだろ  
 うか。

2015年、安倍首  
 相は安全保障法制を成  
 立させた。これによつ  
 て、これまで決して許  
 されることのなかった  
 自衛隊の他国への武力  
 行使が容認されること  
 になった。

さらに2017年、  
 安倍首相は憲法9条を  
 改正すると発言した。  
 憲法9条に自衛隊を書  
 き加えると言う。で  
 も書き加えるだけで  
 自衛隊は何も変わらな  
 い、と彼は言う。（『自  
 衛隊を明記するとは』  
 2018.2.7、朝日新聞）

しかし、何も変わら  
 ないのであれば、変え  
 る必要はないではない  
 か。  
 戦後70年余、日本は平  
 和を享受してきたが、

世界が平和であったわけでは  
 ない。ベトナム戦争があり、  
 湾岸戦争、イラク戦争があっ  
 た。だが日本が武力行使をす  
 ることはなかった。日本国憲  
 法9条が自衛隊の参戦を拒ん  
 だからだ。しかし、憲法9条  
 が変えられるなら、自衛隊の  
 任務も変えられると考えるが  
 自然ではないか。自衛隊が参  
 戦できる道が付けられようと  
 している。

けれども戦争によって世界  
 に平和と安全が来るとい  
 うなことは、まやかしてしか  
 ない。人類はいい加減に悟る  
 べきなのだ。戦争によって来  
 るものは死と破壊、破滅と混  
 乱、そして癒されること  
 のない心の傷である。

預言者の叫びに聞かなけれ  
 ばならない。アモツの子イザ  
 ヤは預言して言った。  
 「彼らは剣を打ち直して鋤とし  
 槍を打ち直して鎌とする。  
 国は国に向かつて剣を上げず  
 もはや戦うことを学ばない」  
 聖書 イザヤ2章4節



入場無料・カンパ歓迎

第8回講演会

福島 沖繩 改憲

私たちのありようが丸ごと問われる今



講師 高橋哲哉さん

日時 6月16日(土) 18:00(開場 17:30) ~ 20:00

会場 ホルトホール大分 大会議室

主催 宗教者9条の会 大分

アフガニスタンを攻撃した米軍の兵士の幾人かは、自分が犯した罪の大きさに気がつき、その罪を償うため、中村医師を慕って集まっていたと聞いた。彼らは戦闘機の操縦席を降り、銃を捨て、スコップとツルハシを手に取った。元兵士たちは、アフガニスタンの人々と一緒になって土を掘

り、石を組み、汗を流す。こうして力を合わせて拓いた大地の上を、静かに生命の水が流れている。田畑は豊かな実りを実らせ、子供たちは元氣一杯、走り回る。これこそ真の平和、預言者たちが預言した美しい世界、神のお望みになるもの。私は、平和を愛したい。

南北・新しい歴史の出発点に

日野詢城

1991年、「韓国非戦の旅」という企画の事前調査で始めて韓国を訪問しました。日本は1910年に「韓国併合」という暴挙を行いました。植民地とされた南北の朝鮮に、宗教界は競って寺院や教会を建てました。1945年日本から解放された時、軍の施設の一部は学校や病院などに転用されたといいますが、寺院の多くは破壊されたと聞きました。宗教者の墮落と精神的な暴力が許せなかったのだと思います。僅かに残った痕跡を訊ね、現地の人から当時のいきさつを訊ねようとした旅でした。その後97年から98年にかけて「ハルモニの絵画展」を沖繩から北海道までの28会場で、カン・ドッキョン、キム・スンドクさんなどの作品37点を展示し、ハルモニの証言会などの企画を合わせて、全国巡回展を実施しました。

言葉が「統一」という悲願だったと、改めて思い起こされる今です。ここ数年、核実験や弾道ミサイルの発射実権など、「あわや」と感じさせる場面もあったように思うが、2018年4月27日、国際社会の要望に應える形で、板門店で金正恩・北朝鮮労働委員長と、文在寅・韓国大統領の南北首脳が「完全な非核化」と「朝鮮戦争の終結」を確認する『板門店宣言』を発表しました。

懐疑的な日本政府は、一応評価するとしながら「これまでに何度となく裏切られてきたから」という反応を示した。直後に、アメリカのトランプ大統領がその結果を高く評価し近く「米朝首脳の間談を実施する」というコメントを発表したため、にわかに懐疑的な発言は封印されました。一気にというのは難しいと思う。でも方向性を明確に示したというのには、まさに「新しい歴史の出発点」に立ったのだと喜びの声に共感したい。

世話人(◎代表者)

無着 成恭

曹洞宗僧侶

酒迎 天信

日本山妙法寺

日野 詢城◎

大谷派見成寺

林 正道

大谷派安養寺

西郡 均

本願寺派誓岸寺

古谷 聡

大谷派蓮照寺

佐々木淳二

大分メソナイトキリスト教会

掛橋 泰定

日蓮宗妙栄寺

大在 紀

本願寺派長光寺

野口 春夫

日本基督教団津久見教会

永井 一匡

アライアンス大分キリスト教会

編集後記

毎日新聞の改憲案に対する世論調査。

反対31%・わからない29%・賛成27%となっている。それなりの報道はあっているのだが、ニュースなどをまったく見ない人が29%なら空恐ろしい。何をなせば良いのだろうか。(詢)